伝送路障害警報処理システム「タップス」（TAPS）

1970 年（昭和 45）に、多数の回線保守作業を正確さを保ちながら、省力化するため、伝送路パイロットレベルデータ集録システム「ピルダス」を開発した。さらに 74 年には、伝送路障害区間を自動的に判定し、これを CRT ディスプレイに表示する伝送路障害警報処理システム「タップス」（TAPS：Trouble Alarm Processing System）を開発した。このシステムによって伝送路の状況が迅速に把握できるようになり、また警報はすべて磁気テープに自動集計処理されるため、伝送路保守作業の効率化に有効であった。このタップスの機能をさらに高めた新タップスが、77 年から国際通信施設局に設置された。

出典：KDD 社史